

選果場のご紹介

新型コロナウイルス感染症対策も万全です

当JAの選果場ではミニトマト、大玉トマト、キュウリが選果されており、ほうれん草やリーフレタスなどの出荷の受入も行ってあります。生産者の利便性を考慮し、24時間いつでも受入できる体制となっており、日中は現在4名の職員と37名のパートタイム労働者がミニトマト、大玉トマトの選果に当たっております。

ミニトマトの選果については、選果機が大小1台ずつで計2台あり、大型選果機については2L〜Sのサイズごと8ライン選別でき、小型選果機については2L〜Sのサイズごと6ライン選別できます。ベテランのパートタイム労働者の方も多く、小型選果機においてサイズごとに流れてきたミニトマトを箱に入れ、重量を測り、調整するという作業がありますが、箱に入れる段階で既に基準の重さに近い量を入れることが出来、ほぼ調整がいらないといったケースも多く、経験のなせる業だと感じます。



今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を行っております。



新入職員の滝澤職員も選果業務に当たっております。



大玉トマトは全て手作業での選果となります。



1 梱り(3箱分)は10kgを超え、かなりの重さです。

出荷量は279t、1kgの単価は6月末での累計実績で586円(税抜き)となっており、昨年と比較して、晴天がなかなか続かないせいか、出荷量は少なくなっておりますが、単価は良好に推移しております。

次は大玉トマトですが、こちらの選果はすべて手作業となっております。生産者が収穫した大玉トマトをコンテナからサイズごとに分け、それぞれ箱詰めしていきます。各サイズで1箱に入る個数が決まっており、サイズを見誤ると入らなくなりますが、ベテランの方々は慣れた手付きでスムーズに選果を行っております。出荷状況はミニトマトと同様、少ないながらも単価は良好です。

また、キュウリも現在は出荷がありませんが、収穫の始まる9月頃から11月頃まで選果を行い、酸化を防止する特殊なビニールの袋の入った箱に詰めて出荷します。

ほうれん草やリーフレタスなどについては通年で受入を行っており、各生産者で選果して頂いたものが選果場に持ち込まれます。

昨今は選果場パートタイム労働者の人数も減少傾向にあり、特に土日の選果では人員のやりくりが大変になっているようです。今後ともご理解と応援よろしくお願い致します。